

進路を考える第一歩は人生設計



大学におけるキャリア教育が重要視されている。自己を分析し、今後の生き方、働き方を明確にして人生の設計を考える…。キャリアをデザインすることは卒業後の進路を考える際の第一歩となる。そのサポートを担うキャリアデザインセンター。4月にセンター長に就任した山崎秀彦(山崎秀彦 学芸学部教授(監査論)) 写真に、なぜキャリアデザインが必要なのかを、同センターの役割や取り組みともにお聞きした。

山崎秀彦センター長に聞く

「キャリアデザインセンターは、学生のみならずが自分の人生を考え、キャリアを描くことの大切さに気づき、そのヒントを得られるようお手伝いをする場です。就職対策のためのだけの教育を行っているわけではありません」山崎同センター長はその役割を語る。

学生時代に人生設計を行うために、どのような心構えや活動が必要なのか。

「まず自分と向き合うこと、自分の個性、資質を知り、価値観を見つめ、得意分野は何か、何に興味を持っているのかを知ることがスタートです。それは1年次の早い段階から試みた方がいい。本学では、すべての新入生がキャリア教育関連科目を履修できるように検討を進めています」

先行き不透明な社会の中で自分の人生を切り開くことには、さまざまな困難がつきまとい。

「考える力と高いコミュニケーション能力や問題解決能力が求められ

ます。それらは、学生時代に多くの人と出会い、社会と触れ合う機会を持つなど、『経験学習』によって育まれます。つまり、学生生活をいかに充実させるかにかかっているのです」

同センターでは、大学と社会との接点を数多くつくり、考える力、コミュニケーションする力を養うプログラムを展開している。

座学と経験学習をバランスよく織

経験を学習で考える力を磨く

り込んだ「キャリアガイダンス講座」「実務家講座」「専修リーダーシップ開発プログラム」別項記事などや、本学独自の「課題解決型インターンシップ」(昨年度は24プログラムに329人が参加)などの支援プログラムを実施。同時にキャリアカウンセリングも行ってきている。また、どんな学生生活を送っているのか、将来どんな人生を歩むのかを自由に書き留める「WEBキャリアノート」の活用を促している。

経験学習は成功もあれば、失敗もある。

「そこで何が問題なのか、振り返ってみることが大事。失敗から知恵を得て再チャレンジする。『経験』と『振り返り』を重ねる螺旋階段を上っていくと、きっと得るものが見つかると。大きな螺旋をゆっくり上っていった方がいいのか、それとも小さな螺旋をどんどん上っていった方がいいか、学生自らが考え、自分の人生をつくり上げていくことが大切です」



▲ 昨年の課題解決型インターンシップ「禅寺丸柿まつり」のプログラムで

大学のキャリアデザイン教育

リーダーシップ開発

講義とロールプレーで体得

リーダーシップ能力の基礎を体得することを目的とした「専修リーダーシップ開発プログラム」が今年度、初めて開講された。生田キャンパスで実施されたこのプログラムをさまざまな学部・学生の学生30人が受講し、講義とロールプレーを合わせたプログラムを通して、着実にリーダーシップ能力を身につけていった。

講師は(株)ウェストエナジーグループの代表取締役社長で本学卒業生の恩田英久氏(平4



▶ 中島氏の講義に耳を傾ける学生たち



▶ グループワークの様子

プログラムは5月15日から7月10日まで、隔週で全12回にわたって行われた。

ここで得た知識を実践する場として、夏期休暇中にフィールドワークが実施され、各自の体験を11月の最終報告会で発表する組んだ。

中島氏は「リーダーシップは、意識して日々実践することで、磨き上げることができる」と話し、さらに「エニアグラムによる性格分類などを参考に多くの人と交流し、考え方や価値観の違いなどを理解してほしい。日々の課題に取り組むことが自分の成長につながる」と学生たちに語り掛けた。

支援プログラム

キャリアデザインセンターの支援プログラムとして本年度から始めた「専修リーダーシップ開発プログラム」と課題解決型インターンシップ「チームビルディング講座」を紹介する。

チームビルディング講座

一体で働く目的、意義を学ぶ

5月25日、キャリアデザインセンターの「課題解決型インターンシップ」参加者を対象に、生田キャンパスで「チームビルディング講座」が行われた。

当日は17人が参加し、一般社団法人日本チームビルディング協会の指導で、「ヘリウムリング」と呼ばれる実習があった。十数名が1組になり、全員が上がり、笑顔があふれる。

「本気! 全員! 失敗を恐れな! 巻き込! まれるので! すというもので、だれか!」



▶ 心一つにして「ヘリウムリング」を試みる



▶ 久恒さんの実践的指導で

参加者は「ぎこちなかったチームの雰囲気、終わったころには和やかな空気になって、意見を出し合うことの大切さを知った」「インターンシップへの不安がなくなった」などと、講座を振り返っていた。